■「観光たかさき」春号（第126号）■平成26年4月1日発行 ■(一社)高崎観光協会／高崎市八島町32-2（岩崎ビル2階）■TEL.027-330-5333 ■http://www.takasaki-kankoukyoukai.or.jp

KANKOU TAKASAKI

観光たかさき

2014 SPRING 春号 VOL.126

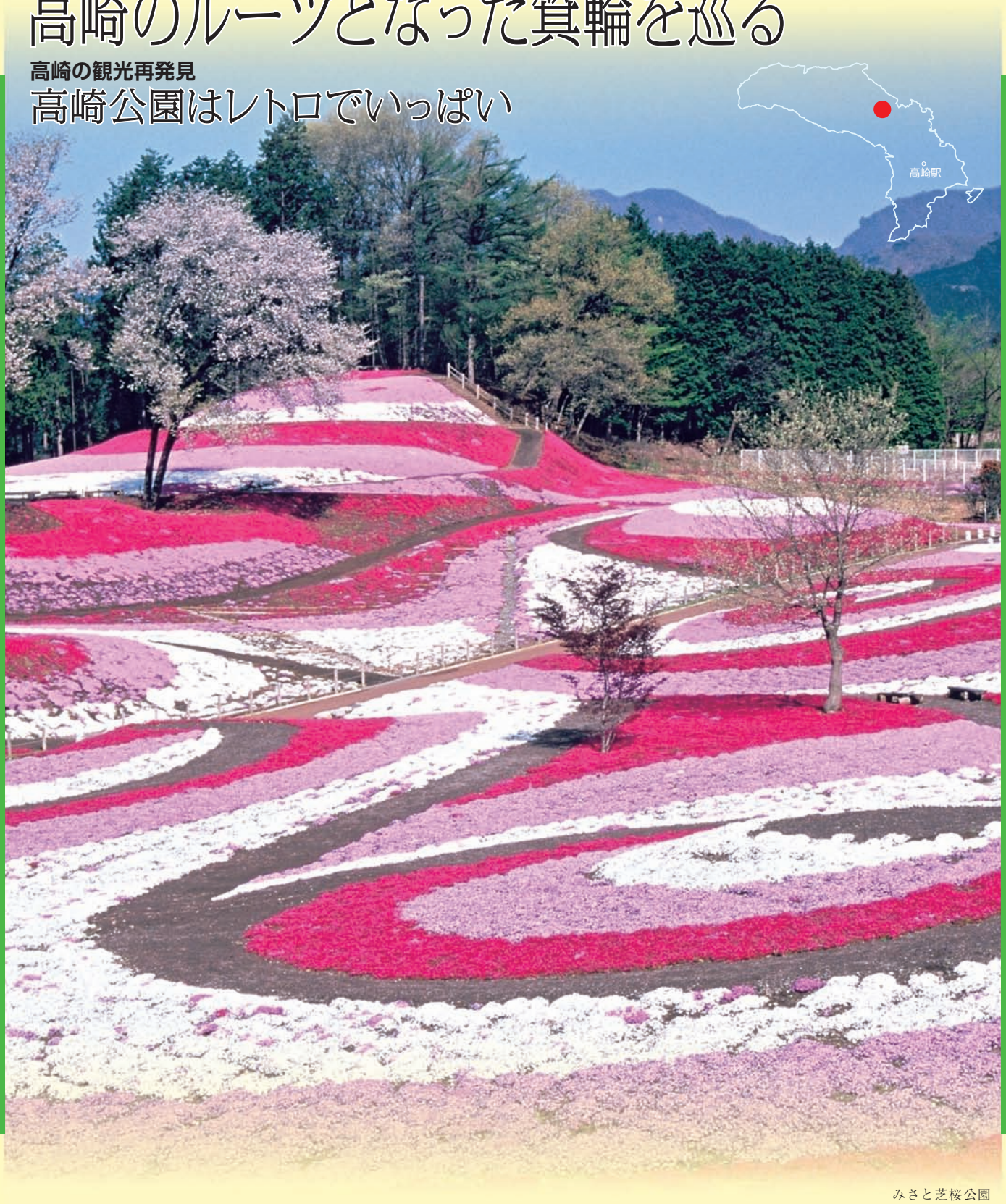
Old Castle

梅香る古城の里

高崎のルーツとなった箕輪（みのわ）を巡る

高崎の観光再発見

高崎公園はレトロでいっぱい



みさと芝桜公園

■みさと芝桜公園（高崎市箕郷町矢原 1961）入園料：大人 300円、小学生 100円
★『芝桜まつり』：4 月 12 日～ 5 月 11 日　午前 8 時～午後 4 時 30 分（入場）
★『きつねの嫁入り出前行列』：4 月 20 日（日）

高崎のルーツとなった箕輪（みのわ）を巡る

春風に 梅も桜も散りはてて 名のみぞ残る 箕輪の山里

（長野 業盛）

箕郷町（みさと）は、榛名白川をはさんだ東側の箕輪町（みのわ）と西側の車郷村（くるまざと）が、1955（昭和 30）年に合併して誕生しました。ここには、戦国時代の覇者たちが居城とした箕輪城跡（みのわじょう）があります。箕輪城は、徳川家家臣・井伊直政（いいなおまさ）が 1593 年（慶長 3 年）に城を高崎に移して廃城となりました。城下の町や寺社も一緒に移ったことから、箕郷町は高崎城下のルーツといえる場所です。

また、榛名山麓の斜面に 10 万本の梅の木が広がる箕郷梅林があり、純白の花の季節には梅の香漂う梅まつりが盛大に開催されます。そして、新緑が輝くこれからのシーズンは、芝桜公園の芝桜が見ごろを迎えます。“織姫の羽衣”にたとえられるほどの美しさです。

■戦乱の舞台となった箕輪城（みのわじょう）と戦国の覇者たち

箕輪城は、武田信玄、北条氏康、上杉謙信が上野国（こうずけのくに）を舞台に三巴の戦いを繰り広げた戦国の世に、関東管領（かんとうかんれい）・山内上杉（やまのうちうえすぎ）の再興をかけて戦い続け、城を枕に一族家臣諸共、悲壮な最期を遂げた長野氏の居城でした。

城は、明応・永正の頃（1500年頃）に長野業尚（なりひさ）が築城し、子憲業（のりなり）、孫業政（なりまさ）により強化されました。弘治（こうじ）年間（1555～1558）から数回に及ぶ信玄の激しい攻撃を受けながら少しも譲らず戦った名城主長野信濃守業政（ながのしなののかみなりまさ）のすぐれた戦術と、領民のために尽くした政治は長く語り継がれてきました。業政の死後、子業盛（なりもり）は父の遺志を守り、将兵一体となってよく戦いましたが、同盟関係を結ぶ諸城が次々に武田軍の手に落ち、永禄9年（1566）9月29日には名城といわれた箕輪城も武田の総攻撃に屈して落城しました。19歳の城主業盛は、「春風に梅も桜も散りはてて 名のみぞ残る箕輪の山里」という辞世の句を残し、一族主従自刃（じじん）して果てたのでした。

※各ポイントは箕郷支所より車で 10 分以内。「芝桜まつりのきつねの嫁入り行列」は大渋滞する場合があるので要注意。

■高崎市箕郷支所
住所：高崎市箕郷町西明屋 702-4
TEL：027-371-5111
◀ロビーには歴代の箕輪城主の家紋を表わした垂れ幕が下がる

落城後は、武田・織田・北条・徳川氏の城となり、各々の重臣が城主となりました。武田氏時代（1566～1582年）は内藤昌秀（昌豊）など、織田氏時代（1582年の1ヶ月弱）は滝川一益、北条氏時代（1582～1599年）は北条氏邦などが城主を務め、徳川氏時代（1590～1598年）は井伊直政が徳川家康の家臣では最大の領地を拝領し城主になりました。

■大規模な堀の残る平山城
国指定史跡で日本百名城の一つ

箕輪城跡は国指定史跡で、「日本百名城」にも選定されています。その最大の特徴は、本丸周辺の最大幅30m、深さ10mの空堀。他にも城の中央部を南北に分断する役割のある「大堀切」など、同時代の城としては大規模な堀が城内各所に残っています。

坂を上り「二の丸」方面に足を踏み入れると、廃城となって420年という歳月が経った城跡は〝夏草や兵どもが夢の跡〟といった風情があります。

また、箕輪城は中世の平山城らしく曲輪（郭）が多いのも特徴です。曲輪とは城を構成する区画の中で盛土された平面部分を指します。本丸（御前曲輪）・二の丸・三の丸・稲荷曲輪・通仲曲輪など、曲輪を示した石柱が各所にありますが、看板の再現図を見て初めて全体の姿が理解できます。城からの眺望は抜群で、城内地図と照らし合わせてみると、この場所が軍事拠点としてふさわしい場所だったと思えてきます。

城跡への入口は6カ所。「大手虎韜門口」・「大手尾根口」・「観音様口」・「椿名口」・「搦手口」と、最長でも20分弱の遊歩道が5コースあり、全て中央コース（800m・所要時間20分程度）につながっていて、自然を感じながらの散策が楽しめます。城跡に毎日のように足を運ぶという〝語り部〟の方によると、地元の小学生たちが歴史を学び植物観察をする場であったり、バードウォッチング目当ての人が訪れたりすることもあるそうです。

箕輪城本丸と土塁

本丸南堀

箕輪城（御前曲輪）

■箕輪城跡（高崎市箕郷町西明屋・東明屋）

「郭馬出西虎口門」の礎石８個がすべて確認され、戦国時代の関東地方で確認されている城門では最大級。徳川家康の家臣として最石高の 12 万石の領地を与えられた井伊直政の城にふさわしい荘厳な城門で、近年復元が予定されている。

■箕輪城に由来した
「箕輪城まつり」「きつねの嫁入り」

戦国ロマンを今に伝えるイベントとして「箕輪城まつり」が毎年盛大に開催されます。箕輪の里の歴史をしのび、人の和を育み、遊び心で楽しむことをモットーに、毎年秋に手作り甲冑や陣羽織を身にまとった住民たちが武者行列や『箕輪軍記』に基づく合戦の様子を再現しています。

また、「みのわの里のきつねの嫁入り」も箕輪城から生まれたこの里を代表するイベントとして人気。箕輪城の稲荷曲輪には、鬼門の位置に京都伏見稲荷大社の祭神が守護神として祀られており、一緒に神の使者として祀られた狐がイベントの主人公です。昭和初期頃まであった

※みさと芝桜まつりの問合せ先：高崎市箕郷支所産業課 TEL.027-371-9111（4月7日～5月11日限定）

毎年 10 月最終日曜日に行われる「箕輪城まつり」。城跡での箕輪城攻防戦。

農家の跡取りが嫁をもらう「もらい御祝儀」という地域の伝統的な婚儀と併せ、合戦で荒れ果てた箕輪城で繰り広げられる狐の世界を描いています。狐のメイクとコミカルな動きが魅力です。4月中旬から5月上旬に芝桜公園で開催される「芝桜まつり」でも一日限定で出前行列が行われ、一面の芝桜を背景にしたきつねの嫁入り行列を目当てに大勢のアマチュアカメラマンが詰めかけます。

■江戸時代の様式を伝える貴重な文化財

箕郷支所のすぐ目の前にある風格のある松の木と白壁の塀が目に留まります。箕輪城主長野氏の重臣下田大膳正勝の子孫が落城後にこの地に土着し、居を構えた屋敷跡です。下田氏は天和3年（1683）、安房勝山藩の陣屋が白川に置かれると同時に代官に任命され、以降明治維新まで代々その役職を務めました。

その広大な屋敷の一部が書院と回遊式風の庭園として残されています。県内では数少ない江戸時代の庭園は、「忠臣蔵」で知られた堀部安兵衛が築庭したと伝わっています。武術に秀でた安兵衛は、旧姓中山だった若い頃に吉井町の馬庭念流道場で修行をし、下田家にも来訪して剣術指南の傍らこの庭を造ったそうです。秋には園内のヤマモミジが真っ赤に染まり、それは見事です。

書院は、桃山風の欄間装飾を残す数寄屋造りで、葡萄とリスを透かし彫りで表現した欄間の彫刻も繊細で優美。近世の様式を伝える数少ない文化財の一つで、県指定重要文化財となっています。

■旧下田邸の書院及び庭園
住所：高崎市箕郷町西明屋 702-2
開館時間：9 時～ 16 時　入場無料

長純寺の長野業政公の像

長純寺（箕郷町富岡 852）は長野信業が開基した長野氏の菩提寺。長野氏の家紋「檜扇（ひおうぎ）」が記されている。

COLUMN コラム

古民家風の空間で上州の郷土料理おきりこみをいただく

箕郷城跡の「搦手口」から 800 メートルほどのところにある小さなお店。玄関で靴を脱いで障子を開けると、そこにはさほど広くない囲炉裏の板の間。1 つのテーブル席と 3 つの座卓席があり、古民家風でくつろげる空間になっています。店を切り盛りするのは紀美さんと娘さん。ご主人が丹精込めた無農薬の玄米や野菜などを食材にしています。「おきりこみ」「すいとん」（各自家製みそ・しょうゆ、各 1,000 円）が食事メニューで、4 品から 5 品がのった前菜プレートがお楽しみ。お店を営み 20 年。最近では上州の郷土料理を求めて県外からのお客さまも目立ちます。

■貴美庵
住所：高崎市東明屋 409-4
TEL：027-371-2650
営業時間：11 時 30 分～ 14 時
定休日：日・月・火

■武将も縁起をかついだ勝ち虫（トンボ）は印傳の定番柄

戦国武将の鎧兜や箙、刀の鍔などの武具、陣羽織や印籠の装飾に縁起物として「トンボ」がしばしば用いられました。トンボは前にしか進まず退かないところから、「勝ち虫」と呼ばれ不退転の精神を表しました。

この勝ち虫とされるトンボを定番柄に取り入れているのが、日本の伝統革工芸品の「印傳」です。４００年ほど前から日本に根付いた独特の革工芸の技法で、なめした鹿革に漆で模様づけしたもの。体になじみ強度を備えているため武具の一部にも取り入れられました。粋を好む江戸の人々も印傳の巾着や煙草入れを愛用しました。

「甲州印傳」が有名で、その北関東一の品揃えを誇る専門店が「辰巳や」です。印傳ファンが遠方からも足を運ぶお店です。

オーナーの齋藤洋子さんは「鹿革は軽くて柔らかで丈夫。使い込むほど手になじみ、正しく取り扱えば、半年ほどで、漆の模様は光沢を増し、より美しくなります。柄に込められた意味を信じて大事に使うと運気も上がります」と話します。

バッグ・財布・ペンケース・スマホケース・名刺入れなど多彩な商品の数々。時代を経ても全く色褪せない柄の美しさや豊かさに目を奪われます。

■辰巳や
住所：高崎市箕郷町生原 622-3
TEL：027-371-2354
営業時間：９時～18 時　定休日：日・月曜

■箕輪の里にマッチした懐かしく新しいきり絵の世界

日本のきり絵画家の第一人者である関口コオさん。その作品はフランスのサロン・ド・パリ展大賞作の「近松心中物語」をはじめ、海外でも高い評価を受けています。そんなコオさんの作品の世界を身近に感じてもらおうと、２０１０年10月より美術館がオープンしました。どこか懐かしさを感じさせるモチーフを熟練したカッターの刃で描いた作品の数々。代表作でもある「童」をはじめとする作品が季節ごとに入れ替わり、訪れる人々を繊細で華麗なきり絵の世界に誘います。

ここにはコオさんご本人もいて、飾らない人柄で質問や写真撮影にも気軽に応じてくれます。ミュージアムショップも併設され、ポストカードやマグカップ、便箋など、コオさんのきり絵を身近に感じられるグッズなどが購入できます。

近松心中物語

ひな祭りの日

マグカップ

関口 コオさん

■関口コオきり絵美術館
住所：高崎市箕郷町上芝 867-1　TEL：027-388-8118
開館時間：10 時～18 時　休館日：火曜日
常設展示室入館料：大人 300 円　小・中学生 150 円

●01 EVENT

第26回たかさきスプリングフェスティバル

4|29（火・祝）

●音楽センター前広場
市庁舎前広場、他

平成と共にスタートした「たかさきスプリングフェスティバル」は今年で26回を迎えます。高崎の春を代表する「市民のための市民のまつり」として定着してきました。

音楽センター前広場で午前10時からオープニングを行い、花鉢・苗木の配布を行う緑花祭、自慢の伝統芸能を披露する市民芸能祭へと続きます。音楽センター東側では新緑の中で琴の調べを聴きながらお茶を楽しむ三曲・野点コーナーと福祉団体を中心にした青空てんと村を開催しています。実行委員会が担当する「里山ひろば」は昔懐かしい木工細工や竹馬作りなど里山の楽しさでいっぱいです。市庁舎前広場ではフリーマーケット・こども広場・食道楽・軽音楽とこちらも盛りだくさんです。

今年の目玉は、ぐんまちゃんや高崎市のゆるキャラが参加し、各部門を盛り上げますので是非！遊びにきてください。また、恒例になりました「ひたちなか市・銚子市・柏崎市の観光物産市」もございますので美味しいものをゲットしてください。

「春に集う」をテーマに親しまれてきたこのフェスティバルは当日延べ2万人もの方々が来場し、暖かな春の一日を楽しんでいます。実行委員も全員市民ボランティアで運営し、学生を中心とする当日のボランティアスタッフを含めると約250名で運営しています。

皆様のご来場をお待ち申し上げています。

●お問い合わせ：たかさきスプリングフェスティバル実行委員会事務局　TEL.027−347−1686

●02 EVENT

第38回県民芸術祭参加 第35回 森とオーケストラ

4|29（火・祝）

●12時開演
●群馬の森大芝生広場特設ステージ
（野外演奏、雨天中止）
●演奏：群馬交響楽団

※入場無料

森とオーケストラは、群馬交響楽団（以下、群響）による無料野外コンサートです。群響は、1945年、戦後の荒廃の中、音楽によって復興をさせようと1945年“高崎市民オーケストラ”として誕生しました。それ以来、市民、県民の皆さんにオーケストラの素晴らしさを伝え、多くの人々に音楽を楽しんでもらう目的で活動してきましたが、当時の人々はオーケストラに対してなじみが薄く、遠い存在であったため、群響は深刻な経営難に陥ってしまいます。このままでは高崎の文化である音楽がなくなってしまう。そんな危機感の中、高崎青年会議所と群響が協力して始めたのが「森とオーケストラ」です。

普段、オーケストラに馴染みのない方でも気軽にご参加いただけます。青空の下でお弁当をひろげながら家族や友達と、最高のオーケストラをお楽しみください。

●お問い合わせ：公益社団法人高崎青年会議所 森とオーケストラ実行委員会事務局
TEL.027−361−7604

●03 EVENT

おかげさまで高崎駅開業130周年

5|3・4（土・祝）（日・祝）

●会場：高崎駅内中心
東西ペデストリアンデッキ

高崎駅は明治17年5月1日に開業し、今年5月1日に開業130周年を迎えます。これからも地域活性化の一役をしっかり担い高崎市の開けた未来に貢献できる存在であり続けてまいります。

5月3、4日には日頃のご愛顧、感謝をこめて駅と地元との連携を図りイベントを行います。SL高崎駅開業130周年記念号による出発式、八島町山車の披露、吹奏楽の演奏、歴史パネル展示、ミニSL乗車体験や物産販売などを行い「ぐんまちゃん」「たか丸くん」がお出迎えします。

イベントは高崎駅内を中心に東西ペデストリアンデッキなどで行われます。お子様も楽しめる企画を用意し、みなさまのご来場をこころよりお待ちしております。

※イベントは変更になる場合がございます。

●お問い合わせ：JR高崎支社　TEL.027−320−7111

●04 EVENT

第2回 榛名山ヒルクライム in 高崎

5|17（土）・18（日）

●会場：高崎市榛名体育館、榛名湖畔

群馬の名峰榛名山で、第2回のヒルクライム大会を開催します。

17日には、榛名湖畔で300名（前回定員150人）の選手によるタイムトライアルレースを午後2時30分にスタートで開催します。また、榛名体育館では、ウェルカムイベントを午前10時から開会します。地元中学生による吹奏楽の演奏やヒルクライム専門チームによるトークショー、地元商工会・JA等による販売ブースも出店します。

18日は、大森神社前を午前7時に榛名湖コース・榛名神社コース・初心者コースの順にスタートし、午前11時30分より、榛名体育館で表彰式を行います。

＊当日は、交通規制があります。ご協力お願い致します。

●お問い合わせ：榛名山ヒルクライム in 高崎 実行委員会　TEL.027−374−6715

EVENT

高崎商都博覧会2014

●05

豪華景品が当たる大抽選会

4 | 26～29（土）（火・祝）

●スズラン高崎店・高崎髙島屋
高崎モントレー・ヤマダ電機LABI1高崎

●抽選期間：4月26（土）～29（火・祝） 午前10時～午後7時
（スタンプ押印は午後6時45分まで）

中心市街地の大型店が連携し、4月26日（土）～29日（火・祝）の期間、第6回「高崎商都博覧会2014」が開催されます。

このイベントは、大型店4店（スズラン高崎店・高崎髙島屋・高崎モントレー・ヤマダ電機LABI1高崎）の共同販促企画で、催事やポイント還元セールなど趣向を凝らした内容が目白押しです。

2店舗以上で買い物をされた方が参加できる「高崎まちなか4店ぐるりんスタンプ」大抽選会では、総額220万円の豪華景品に加え、各店舗独自の「大型店4店賞」もご用意しております。

また、まちなか商店街が連携し、多彩なイベントを開催するほか、「高崎おとまちプロジェクト」による音楽イベントも同時開催する予定です。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

●お問い合わせ：高崎商工会議所　商業振興課　TEL.027−361−5171

EVENT

「高崎バル2014・初夏」開催

●06

6 | 5～8（木）（日）

●中心市街地の飲食店

●あとバル：9日（月）～30日（月）

高崎バル 2014初夏
TAKASAKI BAR 2014 EARLY SUMMER

バルチケット購入
まちなか“食べ歩き”

高崎中心市街地の飲食店では6月5日（木）～8日（日）にかけて、会社帰りや買い物帰りに“食べ歩き”と“まち歩き”を楽しんでいただく飲食イベント「高崎バル2014・初夏」を開催いたします。

バルとは、いつでも立ち寄れる気軽なお店という意味で、参加店がお店の特徴を生かしたワンドリンク・ワンメニューのお得な“バルメニュー”を用意し、お客様の来店をお待ちしております。

5回目の開催となった昨秋の開催では、和食・洋食・中華やイタリアン、カフェやバーなど、バラエティーに富んだ77店舗が参加し、4日間で延べ7千人近いお客様で賑わい、回を重ねるごとに参加者も増えてきております。

前回楽しんだ方も、初めて知った方も「高崎バル2014・初夏」にぜひご参加ください。

「高崎バル2014・初夏」の参加店舗並びに各店舗のバルメニュー等の情報は、ガイドマップや高崎商工会議所のホームページでご案内しておりますので、ぜひこの機会にまちなかの“食べ歩き”と“まち歩き”をお楽しみください。

●お問い合わせ：高崎商工会議所　企画情報課　TEL.027−361−5171

ようこそ高崎 人情市

●07

平成26年4月27日（日）（午前8時～午後3時）　※会場：もてなし広場
平成26年5月25日（日）（午前8時～午後3時）　※会場：もてなし広場
平成26年6月22日（日）（午前8時～午後3時）　※会場：もてなし広場

●お問い合わせ：事務局 NPO法人高崎やる気堂（高崎市剣崎町1348-1）
TEL 027−343−5130　FAX 027−340−7067　http://ninjou.gunmablog.net/

今も市民の憩いの場として愛されている

花見の名所に歴史あり

高崎公園はレトロでいっぱい

タヌキの石像

●樹齢400年のハクモクレンは高崎のシンボル

高崎市役所の南、烏川と観音山を望む高崎公園は、現在も春は桜の名所としてにぎわい、美しい樹木や季節の花で彩られ、年間を通じて市民の憩いの場となっている。

この場所は、江戸時代にはまだ寺があったが、明治以降は高崎15連隊の作業場となり、隣には陸軍病院があった。市が公園として整えたのは、明治時代の終わり頃からだ。

公園内の巨木ハクモクレン（県天然記念物）は、元和5年（1619）に高崎城主になった安藤重信が植えたというので樹齢400年になる。春には美しい花を咲かせ、傍らには歌人・吉野秀雄（1902～1967）が詠んだ「白木蓮の花の千万青空に白さ刻みてしづもりにけり」の歌碑が建立されている。高崎市役所内には、このハクモレンを平山郁夫画伯が描いた陶壁画「高崎の春」が飾られている。

当時、鞘町に住んでいた俳聖・村上鬼城（1865～1938）は高崎公園の散歩を好み、いつも出かけてきていたという。

●県内初の水道が完成し大噴水も

高崎公園中央の池の噴水は、明治43年（1910）に高崎に初めて上水道が敷設されたのを記念して作られた。当時、吹き上がる水の高さは公園に植えられた木よりも高く3mを越えていた。完成時は見物人が押し寄せて大歓声を上げ、噴水は少し離れた柳川町あたりからも見えたという。水道敷設は全国で20番目、県内では初めてとなり、公園の噴水は近代化の象徴でもあった。当時の高崎公園は崖上と崖下に分かれ、そばを流れる烏川でボート遊びも楽しめた。

●釣り人をだましたお化けタヌキ騒動

噴水の横に大きなタヌキの石像が建てられている。笠をかぶり、魚籠を抱え、なんとも憎めない表情をしている。美しい烏川を讃え、豊漁を祈願する水神講の記念で、台座には大正十二年六月高崎遊魚天狗と刻まれている。

当時、公園には烏川に降りる薄暗い小道があり、釣り人がしばしば通っていた。釣った魚がいつのまにか盗まれていたとか、陸軍病院の衛兵が怪しい女にたぶらかされたとか、不思議な事件が相次いだそうだ。これはタヌキのしわざに違いないと、釣り人たちがタヌキの石像を建立したという。当時の高崎市助役が釣り好きだったようで、タヌキ像の発起人となっているから、化けタヌキは本当にいたのかもしれない。

高崎公園は集会などにも使われ、戦時下は畑として耕されたという記録もある。今も残る野外ステージでは、戦後、コンサートがしばしば行われ、市民を楽しませた。国道17号が通されるため、公園は削られてしまったが、今も変わらず市民に愛され続けている。

高崎で唯一、動物舎があり、サルやクジャクなどが飼育されている。昔、クマ舎があったあたりから烏川に渡る歩道橋の工事が既に行われており、今年の秋には完成するそうだ。

「観光たかさき」春号（第126号）平成26年4月1日発行　（一社）高崎観光協会／高崎市八島町32-2（岩崎ビル2階）TEL027-330-5333 ■制作／株式会社グラスロード社